

第二次霧島市総合計画(後期基本計画)施策評価シート

令和5年度

政策	2. 暮らし(みどりあふれる快適で暮らし続けたいまちづくり)	SDGs	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
施策	2. 地球にやさしい循環型社会の形成		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

施策で目指す姿

<ul style="list-style-type: none"> ● ライフスタイルに応じた4R活動等の普及・啓発を展開し、ごみの減量化を推進します。 ● 不法投棄の防止やごみ処理施設の安定的な運営等により、廃棄物の適正な処理を推進します。 ● 市民や事業者等に、さらなる省エネ活動の実践や再生可能エネルギーの利用を促し、脱炭素社会の実現に向けたライフ・ビジネススタイルの定着を目指します。
--

基本事業における成果・課題・改善策

1. ごみの減量化・資源化	決算額(一般財源)	87,165千円 (87,165千円)
令和5年度の事業成果	令和5年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和6年度以降の改善策
市民が適切に分別を行い、ごみとしてでなく資源物として排出されたことで市民一人当たりのごみ量は減少し、資源物の搬入量は増加した。搬入された資源物は適切に処理、出荷され売却益は廃棄物処理費用へ充当された。	一層のごみ減量を図るためには粗大ごみ等ごみの出し方を見直す必要がある。またプラスチック製品のリサイクルについては市町村に努力義務が課せられているため、他市の状況を注視しながら実施時期を決める必要がある。	(仮称)霧島市クリーンセンターの供用開始に合わせてごみの出し方やごみ袋の手数料の見直しなど、分別に取り組んでもらえるようなインセンティブを検討する。 製品プラスチックのリサイクルに取り組む時期を検討する。
2. ごみの適正な排出・処理	決算額(一般財源)	2,903,454千円 (2,903,454千円)
令和5年度の事業成果	令和5年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和6年度以降の改善策
<ul style="list-style-type: none"> ● 出前講座やごみ分別推進アプリ等で分別方法を広く周知するとともに、不適切に排出されたごみにはステッカーを貼るなど意識啓発を図りながら収集を行った。また、高齢者等のごみ戸別収集を開始した。 ● (仮称)霧島市クリーンセンターの整備を、計画どおり3階コンクリート打設等を行い、建築工事の進捗率12.2%まで進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリのダウンロード数は増えているが、不適切な排出ごみは依然として多い。また、不法投棄のパトロールや環境美化推進員の見回り等を行っているが、不法投棄が後を絶たない。 ● 一般廃棄物処理施設の老朽化等により維持管理コストが上がっている。 ● (仮称)霧島市クリーンセンターの供用開始に向けて整備・運営の協議を進めるとともに、敷根清掃センターの在り方検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単身の転入者も多く自治会未加入者が増えているため、ごみの分別についてわかりやすい情報提供に努める必要がある。また、不適切なごみの排出や不法投棄の事例を広く周知する取組が必要と思われる。 ● (仮称)霧島市クリーンセンターの整備・運営について事業者等と協議を進める。 ● 敷根清掃センター等の在り方について方向性を定める。
3. 地球温暖化対策の推進	決算額(一般財源)	39,700千円 (39,700千円)
令和5年度の事業成果	令和5年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和6年度以降の改善策
<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づき、市役所の事務事業に伴って排出される温室効果ガスを削減するため、公共施設のLED化を進めるなど、排出抑制に取り組んだ。また、2050年のゼロカーボンシティの実現に向けた取組の実効性を確保するため、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の計画案を取りまとめた。 ● 地球温暖化対策として、森林所有者の施業意欲を高めるため、国県補助の上乗せ助成を行い、民有林の適切な間伐や再造林等を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年2月20日に宣言したゼロカーボンシティに賛同する企業等を募集し、令和5年度中に78の企業・団体から賛同を得ている。これらの企業等に対して、脱炭素に関する情報を発信し、先進的な取組の促進や施策の横展開によって、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組の加速化を図る。 ● 民有林の伐採(皆伐)により、その後天然下種更新が多く、植栽が進んでいない現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定・公表したことから、令和7年度以降に本計画に基づいた施策・取組を展開する。令和6年度においては、省エネ家電製品への買換えを支援する事業を実施し、令和7年度以降においては、高効率照明器具への買換え(LED化)を支援する事業の実施を検討する。 ● 皆伐後の植栽が進むように、伐採届出による植栽計画への聴き取り等により改善を行う。

施策の進捗状況

KPI (重要業績評価指数)	測定方法	実績値	進捗率	実績値の検証
		目標値	方向性	
24. 日頃からごみを減らすようにしている市民の割合	市民意識調査	-%	-	未把握
		85%	↑	
25. 市民一人1日当たりの家庭系ごみの排出量	環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」(可燃ごみ、不燃・粗大ごみ、資源ごみの合計/人口・年間日数)(N-1)	639g	△11.11%	現状値は2021年度の数字であり、2022年度は639gであった。2023年度は613gの見込み。
		619g	↓	
26. リサイクル率	環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」(資源化量/可燃ごみ、不燃・粗大ごみ、資源ごみの合計)(N-1)	17.1%	10.00%	現状値が2021年度の数値である。2022年度は17.1%となったが、2023年度は16.4%の見込みである。
		19.7%	↑	
27. 再生可能エネルギー導入容量	資源エネルギー庁が公表する実績値(N-1)	414,405kW	26.27%	2023年度(2022年度)実績値は、目標導入容量を上回っており、年度ごとの導入設備容量は年々増加傾向にある。
		549,622kW	↑	
28. 市の事務事業に由来する温室効果ガス排出量	市の事務事業に係る燃料・電気の使用量やごみ・し尿・下水の処理量等を元に算出(N-1)	46,452t-CO2	△26.35%	温室効果ガス総排出量の半数以上を占めるごみ処理施設の不具合によって使用燃料が増加していることが、温室効果ガス排出量を削減できない主な要因となっている。
		29,899t-CO2	↓	

施策としての改善方針

(仮称)霧島市クリーンセンターの供用開始に合わせてごみの出し方やごみ袋の手数料の見直しなど分別に取り組んでもらえるようなインセンティブを検討する。
 また、当該施設の整備・運営について協議を進めるとともに、敷根清掃センターの在り方について検討する。
 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に定める温室効果ガスの削減目標等を達成するため、高効率照明器具への買換え(LED化)を推進するとともに、民有林の皆伐後の再造林を推進する。

施策幹事課	関係課
市民環境部環境衛生課	農林水産部林務水産課 / 建設部建築住宅課